

地域を知ろう(9)

～和田一丁目ぼたもち地蔵を訪ねて～

和田一丁目四十四番二十四号萬昌山長延寺の境内に、江戸時代から有名な「ぼたもち地蔵」が祀られています。

昔の所在地名は豊多摩郡和田堀村大字本村一〇五二番地といわれていました。

この寺は文禄三年（一五九四年）江戸市ヶ谷に創建され、明治四十二年市ヶ谷から現在地に移築されました。

この「ぼたもち地蔵」の由来は、今から二百年前、江戸市ヶ谷に寺領数万坪、今川義元公の墓もあるこの長延寺の門前に信心深い夫婦が住んでいました。その夫婦が、子宝に恵まれないが、この地蔵に願いをかけ男の子に恵まれましたが、産後の肥立ちがわるく母子とも、明日をも知れない容態になりました。その時地蔵の化身した小僧が、ぼたもちを持って現れ、それを食べた母子が、元気になった。以来この地蔵様

に願がけをして願いが叶った時には、お礼としてぼたもちを供え、子育て地蔵として信仰を集めたと伝えられています。

明治末期に現在地に移転して、大正から昭和の戦前まで縁日には、ぼたもち供養が続き、毎年五月二十四日の命日には檀家や信徒の方が集まって大振舞をしたそうです。

わらべ歌より

- 一つ 火鉢で焼いた餅
 - 二つ 福々ふくれ餅
 - 三つ 見事な飾り餅
 - 四つ よごれた黄粉餅
 - 五つ 隠居のかぶれ餅
 - 六つ むつまじ夫婦餅
 - 七つ 七草雑煮餅
 - 八つ 野郎っ子にくれる餅
 - 九つ 小僧にこぶし餅
 - 十で 殿様に上げる餅
- （注 この手の数え歌は、地蔵によってちよつとずつ言い回しが違っていろいろです。）



右側がお供えの「ぼたもち」



ぼたもち地蔵堂前



今川家累世の墓